

平成 22 年 5 月 7 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19390551

研究課題名（和文）

少子化社会の学生の特性に合わせた看護学導入プログラムの開発

研究課題名（英文）

Construct of introductory nursing courses program in the society of with a fewer number of children in Japan

研究代表者

菱沼 典子（HISHINUMA MICHIKO）

聖路加看護大学・看護学部・教授

研究者番号：40103585

研究代表者の専門分野：基礎看護学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護学・看護基礎教育・看護技術・大学全入時代

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、学ぶ主体である学生を中心にして、少子社会・全入時代の学生の学習準備状況に合った看護学の導入教育に当たる基礎看護学領域のプログラムを構築することである。

研究の第一段階として、少子化社会において生活体験が少ないと言われる学生の特徴をとらえることを目的とし、3つの研究を行う。研究1として、看護学生の生活体験全国調査、研究2として、1大学において看護学導入時期にどのような困難性を感じているかの調査をグループインタビューにて行う。研究3では、看護学導入時期の学生への教育に当たっている教員にインタビューを行い、学生へ感じる困難性とそれに伴い行っている工夫について調査する。

第二段階として、第一段階の研究結果を踏まえて、学生の困難性を解消するための教材の開発（研究4）を行い、実際に1大学で活用した後、これらの教材が、看護学導入時期の学生の困難性の軽減につながったかどうかの評価（研究5）を行う。

最終段階では、研究5の結果を踏まえて少子化社会の学生の特性に合わせた看護学導入プログラムの修正と再構築（研究6）を行う。

2. 研究の進捗状況

（1）看護系大学入学者の生活体験全国調査予備調査（その他）を基に、看護系大学1年生の生活体験の質問紙調査を2007年11月に実施した。4601通を回収し、その結果、93%は兄弟姉妹がおり、日常的な生活体験は

少なくないことがわかった（学会発表）。

（2）看護学導入期の学生が感じる困難性

1大学において2年生へ進級した15名と、臨床実習終了直後の9名にグループインタビューを行った。その結果、高校までの学校生活と大学の生活の差に戸惑い、各授業科目の位置づけが理解できなかったこと、技術習得の自己学習の実態が明らかになった（学会発表）。基礎実習終了後では看護技術の習得と実習への適応に困難を感じていた（学会発表）。

（3）教員が捉える学生の特徴と教授方法の工夫

7大学10名の教員への面接調査と、5大学5名のグループインタビューを行った。その結果、生活感に乏しい、病気の人や病院のイメージがない、読めない、書けない等を感じている一方で、課題に対して発想豊かに取り組めると評価していた（学会発表）。

（4）看護学導入プログラム教材開発

上記の結果から、学生の特徴は少子化よりはY-generationと捉えるべき事が明確となり、学習方法に関するオリエンテーション教材、学習内容の看護学における位置づけを示す教材、看護技術学習支援のwebページ（ルカーツ）を作成した（学会発表）。

（5）学習展開の評価

（4）で作成した教材を2009年度1大学で使用し、学習の困難性の解消に役立ったかの調査を2010年3月に実施した。ルカーツの活用について計15名、その他の教材について計16名へのグループインタビューであった。その結果、ルカーツは自宅で予習・復習に用い、技術習得や実習の困難性の解消に

活用されていた。また、学習方法の教材は役立つと評価されたが、学習内容の看護学における位置づけは役立つ一方、視野を狭めるとの批判もあり、さらに新たな困難性も抽出された。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

当初の予定通りに研究を重ねている。これまでの研究成果として、少子化というよりはY-generationとして学生の特徴を捉え、新たな視点から看護学導入期の教材の開発を行い、その評価にまで至っているため。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度には、研究6少子化社会の学生の特性に合わせた看護学導入プログラムの修正と再構築として、研究5における調査の結果を踏まえて、ルカーツの指摘された部分の修正を行い、これらの結果と先に実施した困難性調査(2)の結果とを比較検討し、看護学導入期の学生に合わせた看護学導入プログラムをさらに精練していく予定である。

5. 代表的な研究成果

〔雑誌論文〕(計1件)

佐居由美、大久保暢子、石本亜希子、佐竹澄子、安ヶ平伸枝、菱沼典子、看護学導入プログラムにおけるシャドーイングアドバンスの試み、聖路加看護大学紀要、34巻、70-78、2008、無

〔学会発表〕(計5件)

佐居由美、看護学導入期の学生の困難性に対応した看護技術教材の開発ー演習室と病室とのギャップを埋めるweb教材ー日本看護技術学会第8回学術集会、2009/9/26、旭川クリスタルホール

佐居由美、看護学導入期における看護学生の困難性、第14回 聖路加看護学会学術集会、2009/9/26、聖路加看護大学

安ヶ平伸枝、看護学導入科目担当者の捉える学生の特徴と教授方法の工夫、第14回 聖路加看護学会学術集会、2009/9/26、聖路加看護大学

菱沼典子、Characteristics of Generation Y Nursing Students in Japan、The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science、2009/9/19 Kobe International Exhibition Hall

佐竹澄子、看護学導入期の学生が感じる困難性の検討、第28回日本看護科学学会学術集会、2008/12/14、福岡国際会議場・福岡サンパレス

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

看護学部入学生の生活習慣・体験調査報告書、2009年3月

大橋久美子、菱沼典子、佐居由美、大久保暢子、石本亜希子、横山美樹、佐竹澄子、看護学部入学生の生活体験調査、聖路加看護学会誌、12巻、2号、25-32、2008、有

ルカーツ(Web教材)

<http://www.lukarts.net/>